

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194100418		
法人名	株式会社あしのメディカル		
事業所名	グループホーム和喜あいあい(ユニットB)		
所在地	釧路市星が浦大通3丁目9番29号		
自己評価作成日	令和2年1月20日	評価結果市町村受理日	令和2年3月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0194100418-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	令和2年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>一人ひとりの思いを大切にしています。ご本人の希望を御家族と協力し出来る限り叶えられる様、支援しています。訪問看護ステーション、協力医療機関が隣にある為、体調がご心配な時にも直ぐに相談できます。</p> <p>平屋建ての為、気軽に外出できる利点があり、温かい季節は外で過ごす時間を沢山持っています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	外部評価時のアドバイスを元に理念を見直し、全職員に発信している。また、全職員の目に付く位置にも理念を掲示し、理念の意識が薄れていかないうような工夫をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、大きな行事には職員・利用者と共に参加している。その他、ゴミ拾いや資源回収等の活動にも、都度出来る範囲で参加させて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中々発信する機会は少ないが、定期的に行われる運営推進会議では、都度事例を交えた事故等の報告を行っており、少なからず理解や支援の方法の1つとして発信できているのではないかとと思われる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会役員様や地域包括支援センターの方々等のアドバイスを日頃から頂いており、事業所の主観となることなくサービス向上に活かせる様努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度や手続き等についてアドバイスを賜る機会も多くあり、こちらの取り組み方等については伝える機会は限られるものの、協力関係を築ける様努力している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、施設内で設置している委員会を中心に定期的な勉強会を開催し、全職員が身体拘束をしないケアの理解・実践に取り組んでいる。ただ、玄関の施錠については、夜間に限り不審者等の安全面も考慮し、内側から開閉できる形での施錠を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても施設での定期的な勉強会や、外部での研修にも参加する機会を設けており、身体的な虐待だけでなく様々な虐待について理解・防止に努めるよう取り組んでいる。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットB)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニットの代表者が学ぶ機会を作っており、入居前から制度を利用中の利用者や、現在進行形で申し立てを行っている利用者もいたり、現状では制度を活用しながら支援できていると思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の都合にもよるが、極力契約日以外にも施設見学や契約内容について説明する日を設け説明させて頂いている。都度わからないこと等確認し、何か有れば電話でも対応できることを伝えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族には意見・要望をいつでも表せるよう施設全体の雰囲気には気を配るよう心掛けており、直接施設内へ表す事が難しい方々の窓口として、施設入口に意見箱を設置し対応させて頂いている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も日常的に業務に携わっている為、運営については職員と同じ立ち位置としても意見・提案し合い、より良い運営となるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務の複雑さからも、全員が全員、向上心に繋がるとは難しい部分もあるが、職員の相談等も対応しつつ、個々の職員について把握し整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部の研修は月に1度は行っており、外部の研修についても案内などは随時行いながら、各々勤務時間内で研修に参加できるよう、勤務体制も臨機応変に対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設として、同業者との交流する場は作ることができていないが、施設外研修に参加する職員に関しては、同業者との意見交換も研修で得られるものの1つとして伝え理解してもらっている。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットB)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談・施設見学の機会も作ることを前提とし、入居開始時にも安心に繋がる様な居室の環境面であつたりのアドバイスはご家族にさせて頂いている。その上で、初期はご本人との時間も多めに取、安心できる関係性を構築できる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時から入居に至るまではもちろん、入居以降も出来るだけ御家族の不安を解消できるよう、こちらから確認する等しつつ良好な関係を作れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を見極めたりご家族やご本人の要望も聞きつつ、今必要と思われるサービスを提供している。また、申し込み段階の方々には、必要に応じて他のサービスも含めた相談に乗る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買物、調理、掃除等、日常の生活を通し互いに支え合う関係性を目指し実践しているが、中には余裕がなく介護する側としての声かけに終始してしまっていると自覚している職員もいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の通信にて日々の様子をお伝えしている。行事等では家族の参加も募り、面会時も含め本人の情報について共有できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り途切れないような支援を心掛けてはいるが、1人1人の外出、またはその支援に要する人員等を考えると困難さを感じる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しつつ、職員が間に入りつつ関わり合いや支え合える様な支援に努めている。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットB)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、施設に遊びに来られたり、病院受診時に顔を合わせることがあり、必要に応じて相談に乗る事がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望は極力対応できるよう努めてはいるが、持病や事故リスク等で困難と思われる場合は本人との面談や、御家族とも相談を行い、出来る限り本人の希望に近い形での支援を心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを使い情報収集に努めている。ご本人、御家族様からの情報は入居前、入居後も常に把握し、入居前の施設があればそちらとも情報共有を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の記録として、食事、排泄状況、血圧・体温、1日の様子等を残しており、特変時の対応や、支援に活かす情報として活用している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々職員での申し送りや話し合いの機会もあり、定期的なカンファレンスも含め情報を共有しながら、家族ともご本人の要望等を叶えられるよう、現状に即した介護計画を作成できる様努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、業務日誌、職員情報交換ノート、支援経過記録を記入しておりいつでも情報交換が出来、それを介護計画に活かせる様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の送迎や付き添いの代理を始め、各々の御家族のニーズに出来る限り対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全ての地域資源を活用できているかはわからないが、現状の身体状況から毎日の買物や町内会行事への参加を積極的に取り入れ、安全で豊かな暮らしを楽しめるような支援を心掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホーム入居に伴い、近隣の協力医療機関へかかりつけ医を変更される方もいるが、御本人の安心するかかりつけ医があれば、そちらを優先してもらっている。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットB)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、訪問看護師の来設あり、1週間毎の経緯や個々の体調の相談事に乗ってもらっており、必要時には受診や適切な看護を受けられる様な支援を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者や、入院利用者のご家族との連携は常に行っており、入院中の状態や、退院後の生活についての相談を行いつつ、出来るだけ早い状態での退院を目指している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時から重度化、終末期に関しての方針は説明させて頂いている。協力医療機関、訪問看護ステーションが隣にある為、医療的な問題も常に相談できる体制が有る。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルはあるが、各々が混乱せず動けるような実践的な訓練は不足していると思われる。外部での研修の場も含め、今後取組を強化していきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームで行う避難訓練の他、地区合同避難訓練(地震、津波想定)も行っており、また避難場所として設定している協力医療機関も直ぐ隣に有る為、体勢は出来て来ている。今後も緊急災害に備えられるような訓練を継続して行う予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員、利用者お互いに馴染みの関係になっている面もあり、疎かになりがちな場面が時折見られる。その為、ユニット会議等でも定期的に関わり方を見つめ直せる様な声かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ、本人が望む生活を支援できるよう、1人1人理解しやすく、自己決定できるような声掛けを行える様、心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは有るものの、その日その時の利用者のペースを大切にさせて頂き出来る限り希望に添える様、対応させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設に入る前の生活習慣等も情報として取り入れながら、本人の望む様に支援させてもらっている。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットB)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理強いはいしない中でも、出来る能力を見極め食事が楽しみになるような準備等、声かけを工夫しながら一緒に取り組めるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の抱える病気等も考慮しつつ、食事量・水分量を記録として把握しながら適切な食事量・水分量を提供できる様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居前の生活習慣も大事にさせてもらっている為、全ての利用者が毎食後に口腔ケアを行っている訳ではない。ただ、衛生的な面から起床時と就寝前の口腔ケアは必ず行う様になっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在オムツ対応利用者は1名いるが、部分的にでもトイレ内での排泄を行える機会を作ろうと、排便時だけはトイレ誘導を行っている。その他の方はその方の残存機能に応じて対応を工夫しながら失禁を減らせるよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、食事、運動等、便秘の要因になり得る面についても観察し、乳製品や食物繊維の多い食べ物等でも対応しているが、それでも定期的な排便へと繋がらない利用者は、主治医とも相談し薬剤を使用されている方もいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	認知症を有することからこちらの提案したタイミングで入浴となることがほとんどではあるが、極力楽しみとして入浴を行える様な声かけを行ったり、気が向かない利用者様には無理強いすることなく対応させて頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に合わせてフロア、居室で休んで頂ける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から貰う薬の内容、写真は常に個人ファイルに綴り各職員が内容を理解出来る様にしている。また薬の変更などが生じた場合は必ず情報共有する事としている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の趣味に加え、買物や調理等の家事活動を通じた活動をメインとしつつも、張り合いや喜びを感じながら行えるような声かけやシチュエーションに気を配りながら支援させて頂いている。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットB)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材買い物は毎日利用者と行く事を約束とし常に外出の機会は作っている。定期的にドライブや遠足行事なども設けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族の了承が得られた方は自己管理する場合も有る。難しい方などはホーム管理とさせて頂くが、いつでも希望に応じ使用できる体制となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望が有れば、いつでも対応させて頂いており、本人宛の電話や手紙についても取り次ぎ行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や季節ごとの飾りつけを工夫させて頂いている。夜間などは照明、音にも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置を工夫する、食卓の配置も同様に工夫している。それぞれが思い思いに過ごせる様、口には出さないサイン等にも気付ける様心がけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用前には御家族、本人に使い慣れた物の持参を提案させて頂いている。難しい場合も有るが本人が居心地良く過ごせる様、努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の生活を通して、どうすればより自立に近い形で生活することが出来るか、安全に生活することが出来るかを追求し、環境を作るよう心掛けています。		